

# 日泰獣医合同会議を開催

## LPS、ピクノ、タヒボなどと研究発表

### スケアクロウ

スケアクロウは22日、東京都渋谷区の渋谷エクセル東急ホテルにおいて、日泰獣医合同会議を開催し、日本とタイの獣医師たちが集まり、同社製品のペットサプリメント「パンフェノンス」等の研究発表を行った。機能性成分である「LPS」「ピクノジェノール」「タヒボ」などを中心としたペトオへの研究成果を発表した。

合同会議の午前中はLPS(リポポリサッカライド)に関連した日本やタイの研究報告が続いた。新潟薬科大学教授で自然免疫制御技術研究組合本部長である稲川裕之氏は「LPSの経口・経皮投与による有用性の基礎と応用」と題して講演し、LPSによる自然免疫低下の回避などを説明した。他にも「犬におけるアトピー性皮膚炎の代替療法」としてのリポ多糖サプリメントの使用」「(PRS)センター、ポーパウィー・タナラツティクル博士」などの講演行われた。

午後は冒頭、「パンフェノンス(主要成分:ピクノジェノール)の基礎と効果」(トリードピア、松下昌史社長)で始まり、「僧帽弁閉鎖不全症の犬におけるパンフェノンス併用療法の効果」(エンシス)と題して、日本大学生物資源科学部の鯉江洋教授が登壇した。パンフェノンスは、三つの主要原料ピクノジェノール、発酵ゴマ抽出物、グルタチオン含有酵母エキスで成り立つ。鯉江教授はパンフェノンス投与による末梢血管拡張作用が心臓にかかる容量負荷を軽減させる容量の改善を導くとし、今後も循環器評価法を用いて臨床的有効性を示していきたいと表明した。また、近畿大学農学部の高田陽一博士は「イペットS(タヒボエキスNQ801)の基礎と抗腫瘍効果」と題して講演した。タヒボの木は、南米アマゾン川流域にあるタフベイヤ・アベラネダエという樹木で外皮と木質部との7冊の部分抽出したもの。講演では21種類のがん細胞に効果が期待できることを解説した。

午後には冒頭、「パンフェノンス(主要成分:ピクノジェノール)の基礎と効果」(トリードピア、松下昌史社長)で始まり、「僧帽弁閉鎖不全症の犬におけるパンフェノンス併用療法の効果」(エンシス)と題して、日本大学生物資源科学部の鯉江洋教授が登壇した。パンフェノンスは、三つの主要原料ピクノジェノール、発酵ゴマ抽出物、グルタチオン含有酵母エキスで成り立つ。鯉江教授はパンフェノンス投与による末梢血管拡張作用が心臓にかかる容量の改善を導くとし、今後も循環器評価法を用いて臨床的有効性を示していきたいと表明した。また、近畿大学農学部の高田陽一博士は「イペットS(タヒボエキスNQ801)の基礎と抗腫瘍効果」と題して講演した。タヒボの木は、南米アマゾン川流域にあるタフベイヤ・アベラネダエという樹木で外皮と木質部との7冊の部分抽出したもの。講演では21種類のがん細胞に効果が期待できることを解説した。